

第 11 分科会

学習指導要領が変わると大学教育も変わる？

分科会概要：

「子どもたちが自分で未来を切りひらいていけるように、生きていくための資質・能力を育んでいく」ことを重視した新学習指導要領を履修した学生の大学入学がもう目前に迫っている。「探究活動・言語活動・情報活用能力の育成」を重視した探究型学習を経験した学生に対する大学での教育はどうするのか、どうすべきなのか。少子化がすすむ現代社会での大学の生き残り戦略として“特色のある大学教育の実践”が求められる昨今ではあるが、新学習指導要領を受けて大学教育を変革する必要があるのか、ないのか。必要であるなら、どのような視点での改革が求められるのか。昨年度の分科会に引き続きとなるが、新学習指導要領を履修した学生の大学教育を理系と文系の双方向より考えたい。

<プログラム>

14：00 趣旨説明 京都薬科大学 准教授 石原 慶一氏

14：05 講演 1. 「2017・2018年改訂学習指導要領の特徴と高大接続の課題」
京都大学 大学院教育学研究科 教授 西岡 加名恵氏

14：35 講演 2. 「物理教育における高大接続の視点」
京都教育大学 理学科 教授 谷口 和成氏

15：05 講演 3 「そもそも探究とは何か？ それに基づく教育とは何か？」
京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹氏

15：35 休憩

15：45 総合討論